



宮私幼PTAだより

第99号

発行 者 会
宮私幼 P T A 連 合 会
(会長 佐々木 幸士)

編集 者 員 会
広 報 委 員 会
事務局
仙台市青葉区国分町三丁目6-12
佐正第二ビル6F
電話 (022)263-7040 番

心と体の健康を第一に、

親子で過ごすかけがえない時間を



宮城県私立幼稚園PTA連合会

会長 佐々木 幸士

長引くコロナ禍の中、親御様にとりましては、子どもたちの健やかな成長を願う一方で、長く不安な日々が続いているものと拝察いたします。こうした状況の中においても、いつも子どもたちと明るく接し、園児の安全、日々の幼児教育にご尽力をいただいております教職員の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

今年度の当連合会の活動もコロナ感染防止の観点から、振興・研修大会、親善バレーボール大会等の各行事が中止となりました。来年こそは開催したいと考えております。

さて、国では令和四年度の「こども家庭庁」の創設を含む、子供政策の方針を閣議決定し、この度国会に法案を提出いたしました。

また、宮城県では昨年策定した十年間の総合計画「新・宮城の将来ビジョン」において、「社会全体で支える宮城の子供・子育て」の基本方針を制定し、本年から本格的な施策展開が始まります。

国と県が一体となり、行政の力強い支えで「家庭を築きたい、子供を育てたい」と願う皆様に寄り添い、実感いただける政策の実現に向けて引き続き活動して参りたいと思います。

この宮私幼PTAだよりが発行される三月は、子どもたちにとつて節目の時期です。また、親御様にとりまして、成長の変化をもっとも実感する季節なのではないでしょうか。

年長児の親御様は、卒園するお子様の成長した姿に喜びを感じる一方で、小学校生活への期待と不安も交錯していることでしょうか。

年中・年少児の親御様は、お子様の言葉や行動に表れる一年の変化に目覚ましい成長を実感し、喜びを感じていることと思います。どうぞ成長の節目を感じながら、親子のかけがえない時間を大切にお過ごしください。

コロナの収束は未だ見えないうちではありますが、子どもたちは大人の言動や表情を感じ取り、その影響を直

接受けるとも言われております。私たちが楽しく、生き生きと暮らしていれば、子どもたちもストレスを感じず、伸び伸びと成長していく。そして、私たち大人はそんな姿にまた元気をもらおう。そんな好循環がここに生まれます。

このような大変な時にこそ、心身の健康が第一。心も含めた健康に留意し、本年も頑張つて参りましょう。

第2回役員会開催報告



今年度の第二回役員会を令和三年十一月一日(水)に開催いたしました。今回は初めての試みとして、Zoomを用いて会場とオンライン参加者をつなぐ、ハイブリッド方式で実施しました。

初めてということもあり、オンラインでの参加は三か所四名にとどまりましたが、大きな問題もなく、円滑に意見交換を行うことができました。普段は参加することが難しい遠隔地の役員さんの意見を伺うことができ、非常に有意義な議論を行うことができました。

今後役員会については同じ方法で実施していきたいと思っております。積極的に活用して、より多くの方々にご参加いただければ幸いです。

宮城県知事・県議会議長への要望活動について



令和四年二月四日(金)に宮私幼連合会・宮私幼PTA連合会の代表十五名が宮城県庁を訪問して、村井嘉浩県知事、菊地恵一県議会議長に面会し要望書を提出しました。

要望の内容は、「全国で下位にある私学運営費補助金の改善」など六項目でした。これに対し知事からは、令和四年度予算から運営費補助の大幅な改善を行うなど、非常に前向きなご回答をいただきました。

村井知事には、要望書の提出後、幼児教育懇談会として意見交換の場を設けていただきました。宮私幼理事から幼稚園の経営や保育における現状や問題点を説明させていただき、知事からは年初に今年の漢字として「育」を選んだ思いや、県の将来ビジョンの柱の一つに「子ども子育て」を掲げており、引き続き幼稚園の経営の維持を支援していく方針などを説明いただきました。

村井知事との面会後に、菊地議長と面会し要望活動を行いました。議長からは、ご自分も以前に幼稚園のPTA会長をお務めになつており、今後も積極的に支援していただけるようお願いをいただきました。

今回、村井知事、菊地議長には、コロナウイルス感染拡大第六波への対応にお忙しい中、貴重なお時間を割いていただき、非常に有意義な機会を得ることができました。改めて御礼申し上げます。



令和四年度行事予定

▼宮私幼PTA総会

期日 令和4年6月7日(火)

会場 仙台市民会館 小ホール

▼宮私幼教育振興大会並びにPTA研修大会

期日 令和4年10月20日(木)

会場 仙台市民会館 大ホール

▼宮私幼PTA親善バレーボール大会

期日 令和4年10月18日(火)

会場 セキスイハイムスーパーアリーナ (利府町・グランディ21)

地区だより

登米地区

あさひ幼稚園(丁) 小島 孝尋
(P) 菅原 千秋

あさひ幼稚園

かつて園舎は、東日本大震災により壊滅的な被害を受けました。日本ユニセフ協会の支援を受け、手塚貴晴氏の設計にて二〇二二年七月に再建。震災によって立ち枯れた南三陸杉を使用し建設されました。日本デザイン振興会から二〇一三年にグッドデザイン賞を受賞しています。



南三陸震災復興祈念公園

追悼、継承、感謝、未来を想像する場所。東日本大震災で得た後世への教訓と内外への感謝を伝える場所であり、犠牲となられた方々に静かに手を合わせられる大切な場です。祈りの丘の頂上からは、志津川湾や旧防災対策庁舎を見渡せます。震災の日日には、毎年たくさんの方々がこの場所を訪れ手を合わせる姿が見られます。



さんさん商店街

南三陸のご当地グルメ「キラキラ丼」が食べられる人気の観光スポットです。サンサンと輝く太陽のように、笑顔とパワーに満ちた南三陸の商店街にしたい、というコンセプトのもと、震災後に仮設商店街をオープン。のち二〇二七年三月三日に本設のオープン。飲食店や鮮魚店・土産店が軒を連ねています。建築家・隈研吾氏により「あたたかく・やさしい空間」をめざして設計されました。休日には多くの観光客の姿が見られとても賑わっています。



サンオーレそではま

東日本大震災により敷地内の施設および砂浜が流出しました。周辺の漁港や道路の整備が進み、平成二十九年七月、七年の歳月を経て再オープンしました。「サンオーレ」という名前は、砂浜の全長(三〇〇m)に由来しています。内湾に位置する海水浴場のため、波が非常におだやかで小さな子どもたちも安心して泳げます。また、すぐ隣になる「荒島・楽天パーク」には、オクトパス君の遊具をはじめ、様々な遊具が揃っています。



南三陸のパン屋さん

海の幸、山の幸がたくさんある南三陸町。そんな町の山間部にひっそりと佇むパン屋。建物は南三陸杉を使用して建てられており、工房の前には麦畑が広がっています。パンに使用するワカメやのり、りんごやブルーベリーなどの食材は地場の物を使用し、時には自ら収穫することもあります。素材はオーガニックにもこだわり、時間をかけて仕上げたパンは、南三陸をたくさん感じられる一品になっています。



仙南地区

柴田町にある熊野幼稚園の魅力とお子さんと楽しめるおススメスポットをご紹介します。

熊野の魅力❖その一

しっかりと輝く子どもたち

齋藤 麻夕(P)

熊野幼稚園の子どもは、物事を学ぶ時に欠かせない「聞く力」があり、人の話をしっかりと聞き、何事に対しても意欲的に活動します。

「聞く力」を育むために、毎朝「立腰」を行います。文字通り、腰骨を立てて背骨を伸ばすことです。立腰を行うことで、姿勢が整うだけでなく、集中力がつき、やる気が起る等の効果があるようです。立腰が終わると子どもたちに先生が「二日話をして下さいます。人との接し方や幼稚園での過ごし方等、自分の行動を振り返ったり、今まで知らなかったことを知ったりすることが出来ます。子どもたちは「そうか」「もつと聞きたい」と自然と話を聞く面白さに触れ、ますます進んで話を聞くという好循環が生まれます。

そして、子どもたちに聞く力を育てて下さっている先生方が聞く名人です。子どもの話に積極的に耳を傾け、心に寄り添って強化して下さいます。

子どもは先生方が自分の話を聞くとはどういうことを学びます。私たち保護者は日々の生活に追われがちですが、しっかりと子どもと向き合えば、真剣に話を聞く姿勢を大事にしていく必要があるのかもしれない。



熊野の魅力❖その二

音楽教育 鼓隊パレード

菊地 直美(P)

熊野幼稚園では音楽活動の一環として毎年秋に行われる運動会で年長の子どもたちが鼓隊パレードを演奏します。運動会の恒例行事となり、子どもたちは毎日のように練習を重ね本番に望んでいます。

運動会を通して子どもたちは集団行動を身につけ、周りの子どもと協力して演奏し、演奏しながらの色々な隊列移動など最後までやり遂げることの達成感を感じています。

自分の身長より大きなフラッグや重い楽器を持ちながらの演奏はきつと大変なことだと思えます。

保護者として本番は緊張と同時に最後までやり遂げた安心感で胸が熱くなる思いがあります。これからも伝統ある鼓隊パレードが長く続くことを心より願っております。



感想 鼓隊パレードを通して

私は鼓隊で指導者をしました。手をずつと腰に当てたり、周りを見ながらするのがとても難しかったです。沢山練習をして頑張る気持ちを持っていたから最後まで頑張りました。楽しくできて良かったです。

〔年長組 半田 紗葵〕

五月からコツコツと練習を続けた鼓隊パレード。本番では幼稚園児とは思えないほどパワフルでまとまりのあるパレードでした。

ニコニコ躍る娘はとても誇らしげな顔でした。先生方が指導いただきありがとうございました。

〔保護者 小野 有季〕

熊野の魅力❖その三

パパも大活躍

井上 裕聡(P)

杵と臼を使った餅つきは重労働！、そこで役員のお父さんの出番です！熊野幼稚園では十二月九日に餅つき会が開かれました。前日から先生方や役員のお母さん方が準備をし、さあ餅つき本番！もち米をこねて、豪快なお父さんの餅つきに子どもたちは「頑張れ！」「かっこいい！」と声援を送っていました。子どもたちも餅つきを体験し、ついたお餅がお昼ご飯。普段見ることのできない子どもたちの幼稚園での活動や昼食風景を見たお父さんたちは「来て良かった」「子ども応援ってやっぱり力が出来ますね」と満足してもらえたようでした。

今回の餅つきで子どもたちだけではなく、お父さんたちも貴重な経験ができたのではないかと思います。



熊野の魅力❖その四

太陽の村

堀米 沙耶(P)

柴田町には、自然豊かな遊び場がたくさんあります。中でも、我が幼稚園を懐くように存在する森には、太陽の村という施設があります。太陽の村は昭和五十一年に自然休養村として開村しました。四ヘクタールの広大な敷地には、ふわふわドームやキックバイク、マウンテンバイクのコースなどがあり、冒険遊び場として大人気です。また、お花見や芋煮会など四季を通じて憩いの場として家族で楽しむことができます。園行事には、遠足とは別に太陽の村で過ごす園外保育があり、子どもたちはとても楽しみにしています。大自然の中でたくさん走り、遊び、喜びと共に帰宅し、楽しかった話を輝く目で話すのです。皆さんも冒険遊びを体験してみてください。



石巻地区

法山寺幼稚園(P) 阿部ひとみ

豊かな石巻

石巻と聞いて、皆さんはどのようなイメージをお持ちですか？

おいしい海産物、東日本大震災から立ち上がり、新しく作られた街並み、風光明媚な観光スポット。どれも石巻の自慢の一つです。さらに最近ですと、街がアートで溢れる、リポーンアートフェスティバルなどがあります。このフェスティバルは、音楽プロデューサーの小林武史さんが中心となり、国内外から観光客が訪れる一大イベントとなっております。その影響を受けたアーティストたちが、石巻に移住したり、活動したりしています。

また、それぞれ個性のある、田代島網地島、金華山の三つの島があります。その中でも、田代島にはたくさんの猫がいて、猫好きな人たちが観光に来ることで有名です。加えて、石ノ森萬画館も観光スポットとして有名で、さまざまなイベントや、漫画の原画展などが開催されています。そんな石巻の魅力を少しでも多くの皆様へお伝えできるように記事にまとめてみましたので、つたない文章ではありますが、読んでいただけたら幸いです。



石巻の newName

石巻の newName として、注目を浴びているスポットがあります。それは、マルホンマキアートテラスという複合施設です。外観はかつての石巻の街並みを彷彿とさせる外観で、家形や煙突の形をした建物が一列に並んで見える真っ白な建物です。中には、コンサートも開催されるホールや石巻市博物館、レンタルルームなどに分かれています。入り口には小さな椅子や机が置かれたキッズコーナーやカフェがあり、カフェでは石巻プレンドのコーヒーが楽しめます。フードメニューなども充実しているのです。ぜひ一息つきたいときにおすめです。昨年は、アニメーションとジブリ展というイベントが開催され、多くの方が来場され、大好評だったようです。マルホンマキアートテラスの目の前にはセイホクパークといったスポーツ施設が隣接され、一日を通して大人も子どもも楽しめると思います。石巻の newName へぜひお立ち寄りください。



石巻お出かけスポット

東日本大震災の復興整備が進み、石巻でもたくさんの公園が新しく整備されました。私自身も、子どもを連れていき体を動かして、楽しく利用しております。そこで、実際に行ってみておすすしたい公園やお出かけスポットをご紹介します。まず初めにご紹介するのが、石巻市南浜町にある雲雀野公園です。新しく設置された遊具は、大きな滑り台やターザンロープ、椅子付のブランコなどがあり、大きい子から小さい子まで、幅広い年代のお子さんが遊べる工夫がされています。駐車場やトイレ、屋根付きのベンチもあるのです。安心して長時間たづなり楽しめます。次にご紹介するのが、セイホクパーク石巻にある子供広場です。こちらは二つのエリアに分かれており、一歳から六歳くらいまでのお子さんを対象とした、のびのびエリアと六歳以上を対象にしたわんぱくエリアに分かれています。こちらの公園も幅広い年齢のお子さんが楽しめる公園となっております。またそのほかにも、牧山市民の森にあるアスレチックは、大きなローラー滑り台や遊具があり、自然の中でたくさん体を動かして、とてもおすすめています。まだまだおすすスポットがたくさんありますので、ぜひ石巻へ遊びにいらしてください。



石巻の子どもの防災

二〇一一年三月十一日の東日本大震災からもうすぐ十一年。石巻でも大地震による被害や巨大津波による甚大な被害が起きました。またいつ起こるかわからない災害に備えて、石巻の学校ではどんな防災の取り組みが行われているのか調べてみました。

まず一つめは、小学校の授業の一環で、避難場所の確認を児童たちが街を歩きながら確かめる取り組みです。例えば、津波からの避難場所として、津波避難ビルの位置を確認するといった内容です。

二つめが、身近にあるもので防災グッズを作ってみようという取り組みです。こちらは新聞紙やごみ袋で暖をとれるグッズを作成したようです。

このように、実際に自分たちで街を歩いたり、作ったりすることで、本当に災害が起きた時に役に立つと考えられます。

また、実際に震災を経験した人々からの体験談を聞き、防災意識を高めることが大切だと思います。

皆さんの地域でも様々な防災の取り組みを行っていると思います。

今一度再確認してみると、新しい発見があると思います。ぜひ家族みんなで話し合ってみてください。



石巻に伝わる鬼伝説

日本には二月に節分や、桃太郎最近ですと、鬼滅の刃が流行するなど、鬼が出てくる物語や行事がたくさんあります。調べてみると石巻にも鬼に関する伝説がありましたので、簡単ではありますがご紹介いたします。

石巻に牧山という山があります。しかし、かつては魔鬼山と呼ばれていたそうです。今から約千年以上も前、天皇を中心とした政府に従おうとしない蝦夷と呼ばれた人々が住んでいました。その首領が大獄丸です。そして、石巻地方には、魔鬼と呼ばれる一族がいて、その一族を統率していたのが大獄丸の妻の魔鬼女だったといわれています。魔鬼女は牧山に居館を構えて、人々はこの山を魔鬼山と呼んだそうです。

自分たちが住む地域でも、鬼に関する言い伝えがあり、とても興味深く感じました。また、鬼と聞く悪事や力強さを感じますが、泣いた赤鬼の物語に出てくる鬼のように、鬼たちの中には人間と仲良く暮らしたいと考える鬼もいたのではないかと思います。立場や容姿にとらわれず、お互いに理解しあい、助け合う心を持ちたいと思います。

